

朝日新聞の読書面は、毎週日曜日にたっぷり4ページを割いており、休日にじっくり読んでほしいという願いを感じさせます。作家や評論家、大学教員などの書評委員を中心とした多彩な顔ぶれによる新刊書評が中心ですが、新刊紹介やベストセラー情報（「売れてる本」「週間ベスト10」）、著者インタビュー（「著者に会いたい」）、ニュースにまつわる書籍紹介（「ニュースの本棚」）、著名人によるエッセイ（「思い出す本 忘れない本」）などもあり、紙面はバラエティーに富んでいます。紹介される本はほとんどが新刊書で、数も多く、記事を参考にして購入する本を決めている人も多いでしょう。格調高い本がほとんどですので、この中の1～2冊は教員としての教養を高めるためにも、ぜひ読んでほしいものです。

また、毎月1回（ほぼ最終日曜日）、1ページを使って特集する中高生向けの「どくしょ応援団 YAのためのブックサーフィン」も読み応えがあります。各界で活躍している人が、十代の頃の本との出会いを語っています。「ひとりごと」「読書クラブ通信」という投稿欄もあります。若い世代の活字離れが指摘されていますが、この欄を読むと、本好きの中高生が大勢いることがわかります。

読書面4ページとも、下段の広告は書籍のもので占められていて、新刊書の情報を得る上でとても役立っています。このように、読書面も生徒に勧めてほしいです。

（鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問）